

平成27年度 第5回静岡県作業療法士会 理事会議事録（平成27年12月26日）

出席者：秋山、三井、梶原、稲葉、岩井、大石、大庭、小林、齋藤、建木、林、村岡（理事：12名）
小笠原、谷川（監事2名）、熊谷（顧問1名）〔高岡、小坂、武内（書記）〕

場 所：静岡県作業療法士会事務局（静岡）13：25～18：00

※【平成27年度 第5回理事会資料】＜別紙資料＞に順じて進行

【報告・審議事項】

1. 3役会、部長会の報告：部長会議事録参照

2. 第29回静岡県OT学会（稲葉理事）

- ・進捗状況について報告（資料参照）
- ・賛助について：リストアップし検討中
- ・査読者への依頼文書発送について：学会長承認済み。学会ガイドライン作成中につき依頼書を作成。
- ・学会ガイドライン作成中につき、公文書等動きがあれば三井副会長へ報告
- ・確認事項：受付ブース（事務局）は設ける、アンケート（調査部）は実施する方向で決定。
依頼事項は承認。

3. 第30回静岡県OT学会 進捗（齋藤理事）

- ・会場費がかさむ（試算1,200,000円）ため、プログラムに見合う会場を使用。
- ・収支予算案：準備年度について施設使用料前払い分を加えて計上。
⇒ 準備金と補助金は分けて考えること。補助金は収支がマイナスでも良い（切り詰めて良い運営が出来ないのは良くない）。まずは予算立てを行うこと。
- ・静岡がんセンター学会等事業費補助金について
50万円を限度として受けられる可能性がある。事務手続き等の手間も把握した上で検討。
静岡県東部地域コンベンションビューローという補助金もあり、今後県士会の資金だけでなく他の援助を受ける手段も皆で検討してはどうか。
- ・実行委員への参加費等の配慮
運営のために講演等のプログラムに参加できない場合は、参加費を下げる等の対応はどうか
⇒ 1日の実行委員へは参加費-1,000円+弁当（29回学会より開始）

4. 静岡県作業療法士連盟設立の件（熊谷顧問）

- ・連盟とは、OTが県民の健康に寄与できる団体であるということをアピールして、様々なことを発案すると同時に議員を支援するもの。そのための話し合いをする場を設けることが役割。とりあえずの設立でなく実働（パーティーへの参加、議員への挨拶等）させていかななくてはならない。実働させるためには、会員や資金が必要である。
- ・県士会からの議員への働きかけは進めにくく、連盟からの方が議員へ働きかけやすい。
- ・連盟役員については、県士会の役員とは分けて考える必要がある。
- ・周り（他団体等）からどう見られているかということを意識するべき。
- ・福祉に力を入れる議員に対し、OTがやりたいことを働きかけることも政策に入っていくポイント。
⇒ 連盟は設立することで承認。連盟会長は熊谷顧問。今後役員を人選していく。

5. 公益法人取得準備の進捗（勝又理事）：紙面報告

6. POS（リハ専門職）協議会設立の件

- ・1月30日3士会合同会議で設立の最終打合。訪問リハ、災害対策、地域活動推進を3士会で運営。必要に応じて将来法人格取得も検討。まずは他団体へ働きかけていく。
- ・課題：事務局機能。会計方法はOT士会に合わせ行っていく。

7. OT協会代議員選挙について→選挙結果：6名立候補し選挙なしで当選（任期：4年）

8. 各種委員の推薦依頼の確認（事務局）

- ・1月28日研修会：菊川病院の山下氏内諾済み（文書送付し返事待ち）
- ・健康福祉に関する会議：中東遠→秋山会長、尾崎氏、東部→三井副会長、ピリ氏

9. その他

○第2回地域リハビリテーション推進に向けた検討会報告（11月25日県庁にて）

- ・出席者：県2名、各圏域から8名、POS、静岡市、伊豆の国市
- ・内 容：2団体（静岡県リハビリテーション協議会と地域リハビリテーション広域支援センター）の位置づけ、現状報告と意見交換を実施。→広域支援事業は方向性不透明だが継続。
- ・今後のスケジュール：1月12・13・25日打合せ、2月22日実務者連絡会

【各部報告】

1. 財務部（小林理事）：特になし

2. 学術部（三井副会長、清水部長、尾崎副部長）

1) 各種研修会随時開催（資料参照）

2) 第5回 MTDLP 全国推進会議報告

①現職者選択研修への組込み：H28年度より現職者選択研修（4領域）の中で必須項目に位置づけ。

- ・現在学術部内の MTDLP 委員会だが、会計等の問題があり組織編成をどうしていくか
- ・学術部から外して特設の委員会として設置するか、教育部内の委員会とするか。研修会のみ
の活動であれば特設委員会とする必要はない。
- ・教育部の部員だけでは実働部員数が足りない。
- ・研修会開催数が6回だが、参加者数に見合った運営をするべき（収支バランスを考慮）
⇒ 学術部から外し、教育部と MTDLP 委員会で組織と人員と資金について検討。

②基礎・実践者研修修了者について：協会の目標値に届いていない。

- ・精神科では使いにくさもあり、改変を検討中。
- ・介護保険領域での利用が増えているが、領域関係なく使えるように会員へ周知。
- ・施設によっては、定型ツールがあるため新たに使うとなると煩雑になる。
- ・養成校では次年度より授業で取り上げることになっている。

③生活行為向上リハビリテーション実施加算算定状況について：協会が調査中。静岡は1施設算定。

3. 教育部（村岡理事）

1) 研修会予定について報告（資料参照）

※新人オリエンテーション平成28年4月24日開催。平成28年度第1回理事会を同日開催。

①研修会費について：1,000円への値上げは要検討

- ・日曜日勤務の施設があり参加者数減少の原因。研修の必要性を会員に周知。
- ・逆に無料にして来客数を増やすのはどうか。しかし、出られない会員からするとどうか。
- ・法人化の観点からも収益を上げることも必要。出られない人の心情も考慮し検討。
- ・財政面も考慮する必要がある。まだ収支がはっきりしていない。
- ・会員をいかに納得させられるか。受講料を出し続けても参加し続ける会員を増やしていく。

2) MTDLP 関連：学術部の報告を参照

4. 広報部（大石理事）

1) 広報誌：内向き広報誌（会報誌）と外向き広報誌の2分化（会報誌費用20～30%削減目指す）

外向き広報誌は年1回の発行目指す。企画や取材、設置場所検討など土壌と実績を作る。

2) ホームページ：部員の努力により15,000円で運営。しかし、業務量増加やセキュリティーの

脆弱化等課題あり。来年度は可能性について情報収集を行う。

5. 渉外部（秋山会長）

1) 渉外活動の報告と予定について報告（詳細は資料参照）

2) 来年度の活動方針

①MTDLP の推進

②地域包括ケアシステムに向けた県士会の組織編成等

③認知症初期集中支援チームへの介入（OTとしてのスキル向上、システム作り）

④特別支援教育への対応 → 静岡発達SIG（鴨下氏）より提案（詳細は資料参照）

- ・県士会員の現状把握：単発で終わる調査ではなく随時更新できるものが必要。

⇒ 関連部局と連携し実施

- ・部署（窓口）設置：ワーキンググループとして予算をつけても良い。

関係する会員の把握や窓口担当者を把握する役員が理事会と連携を図る必要がある。

⑤子育て世代会員への支援

6. 福利部（齋藤理事）

1) 東海北陸リーダー養成研修会 in 静岡 参加者62名、スタッフ8名 アンケート実施

2) 子育て世代への現況調査：調査部と連携しアンケート実施。今後確認・検討。

3) 平成28年度事業計画案

①作業療法士の教育向上（第5回静岡リーダー研修会開催）

②会員の共益に関する事業（第29回静岡県OT学会への参画、新人歓迎会支援、アンケート実施）

③法人としての士会機能の充実に係る事業（福利部会開催）

7. 事業部（建木理事）

1) 報告事項

- ①ふれあい広場 施設関係職員が多く、OT 派遣検討や子供の進路(PT または OT で悩み中)の 相談を受ける機会になった。来年度は他の福祉イベントと比較検討。
- ②作業療法体験デー：イオンモールにて開催し、348 名の体験者。
事業の予算については、費用対効果も意識して検討（出展方法なども検討）。
- ③残りの事業：家族会、チャレンジ事業、公開講座は進行中。
※チャレンジ事業は募集と助成金の支払い時期が遅いため予算を使いづらい報告もある。
- ④第 11 回公開講座：平成 28 年 1 月 16 日（土）中東遠総合医療センターにて開催

8. 調査部（大庭理事）

- 1) 学術部調査補助：生活行為向上リハビリテーション実施加算
- 2) 子育て支援アンケート（次回理事会で結果提出）
- 3) 次年度予定：現況調査、公益事業に関する調査、学会アンケート、各部との調査活動の検討

9. 制度対策部（梶原副会長）

- 1) 平成 28 年度診療報酬改定研修会について：来年度早々に開催予定（対象は部門長を中心）
- 2) 平成 28 年度診療報酬改定関連情報を随時 HP にアップしている。
→ 情報は吟味し、勇み足にならないようにする。
 - ・ 12 月 2 日中医協総会資料
 - ・ 12 月 26 日読売新聞 療養病床半数削減記事

10. 地域活動推進部（林理事）

- 1) 活動報告・9 月 27 日 : 地域の会議へ出席
 - ・ 10 月 25 日 : 発達障害児と段ボールで遊ぶ企画
 - ・ H28 年 1 月 31 日：市町代表者研修会（ろうせい会館にて開催）、懇親会
- 2) 事業計画・地域住民や患者・家族会とのコラボレーション
 - ・ 官主導の活動に参画

東部（大庭理事）：特になし

中部（勝又理事）：特になし

西部（稲葉理事）：メール配信料 7,000（税抜）を予算に追加

11. 都道府県連絡協議会（岡庭理事）：紙面報告

12. 災害対策委員会（村岡理事）

- 1) 第 4 回静岡災害リハ研修会：12 月 5 日（土）開催。参加者数 37 名少なく周知徹底できず。
 - ・ 地域の防災訓練の前日だったこともあり地域訓練への参加に偏ったか。
- 2) 防災訓練：3・11 の前後に開催。案内を 2 月広報誌に同封
- 3) 協会広報誌執筆依頼：静岡の取り組みを紹介（村岡理事）

13. 法人化推進委員会（勝又理事）：紙面報告

14. 表彰委員会（小坂氏）：特になし

15. 訪問リハビリテーション連絡委員会（岡本委員長）

- 1) 訪問リハ振興会：リーダー会議に参加。研修会を委託され開催。
 - ・ 研修会（管理栄養士の講義）に他職種を広報。
 - ・ 来年度もリーダー会議に参加し方針に沿って研修会を開催予定
- 2) 事例収集：活動と参加に特化した訪問リハについて（4 回募集期日）随時提出。
 - ・ 財団とのつながりや立ち位置も考慮していくべき。
 - ・ 集積の内容についても知っておくべき。今はしくしくと進め、会員の訪問リハの士気が高まったところで病院（施設）から訪問リハを行うにはということを経営管理を含め県士会として取り上げて行っても良い
 - ・ 多職種交えた研修について、今回は講義のみであったが報酬・加算なども考慮した形で行えるといい。基礎編も行ってほしい。

16. 事務局（岩井事務局長）

- ・ 事務局が上手く機能していない。人手不足も課題。
- ・ 公益と法人管理の区分として時に、法人管理の部局は事務局会議への参加も検討（調査部、規約検討委員会、表彰委員会等）
- ・ 来年度予算案について、各部からの提出案 → 財務部案 → ヒヤリングの流れにしたい
- ・ Drop Box 内の管理について、各部局のフォルダ作成したため徐々にに入れてほしい。

17. その他

1) 会計について（小笠原監事）

弁当等の領収は単価と個数についても記載すること。

領収証等の印鑑についてシャチハタは禁止。朱肉もシャチハタの色と異なる色にすること。

⇒ 食費の上限があるため各部会計担当へ確認。

2) 精神障害者地域移行支援研修に関する打ち合わせ

開催日：平成 27 年 11 月 10 日（火）県庁にて開催

出席者：県 PSW 協会（6 名）、日本 PSW 協会、静岡市保健所精神保健福祉課、日精看静岡支部、静岡市こころの健康センター、浜松市障害保健福祉課、県障害福祉課（2 名）、

県精神保健福祉センター（3 名）、県 OT 士会

- ・ 医療保護入院の退院促進に対して PSW が行政と話を進めている。
- ・ 圏域毎のプロジェクトに入るために県士会としても窓口を作る必要あり（精神科部会なるもの）
- ・ SIG では、若手中心のため別段で組織作りをしたい。
- ・ 活動は会議や研修会の運営（予算はそれに伴い交通費等）

⇒ 渉外部直結のワーキンググループとしてまずは予算立てを行う

【次回】

第 6 回理事会日程（候補日）：2 月 6 日 ※ヒヤリング

平成 27 年度理事会開催予定日および開催日

	開催日・候補日		備考	主な行事
第 1 回	4 月	26 日（日）	新人オリエンテーション時	
第 2 回	6 月	13 日	部長会開催	6 月 20 日 OT 学会
第 3 回	8 月	1 日	納涼会	
第 4 回	10 月	31 日		
第 5 回	12 月	26 日	部長会開催、忘年会	
第 6 回	2 月	6 日	ヒヤリング	
第 7 回	3 月	26 日（土） or 27 日（日）	年度末の会計	

※平成 27 年度 第 1 回理事会は、新人オリエンテーション開催時とする。